


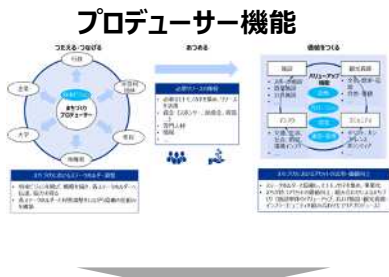

説明用資料

FEEL NAGANO, BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

これまでの振り返りと今後プロジェクトを推進していくうえでの主な論点

第1回では3つのプロジェクト全体像を示し、プロデューサー機能の必要性が議論された。第2回ではプロデューサー機能に焦点を当てて議論を行い、長野市においては行政が主導でプロジェクト推進すべきとの意見を頂いた。第3回においては、行政主導で推進する際の課題感や手法についてご意見をいただきたい

プロジェクト全体像	懇話会の議題	懇話会のまとめ
	第1回 R7.8.4	<ul style="list-style-type: none">長野市における3つのエリアマネジメントプロジェクトの全体像の共有先行している飯綱での合宿誘致の状況共有
	第2回 R7.9.16	<ul style="list-style-type: none">一般的なプロデューサー機能の役割・課題他の自治体における事例長野市における現状課題、長野市におけるエリアマネジメント
	第3回 R8.1.19	本日の議題 <ul style="list-style-type: none">推進中の3つのプロジェクトの最新情報の共有<ul style="list-style-type: none">①飯綱高原の特性を生かした合宿等の誘致②ビッグハットを核とした東口エリアの活性化③南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成市長公約にも掲げている上記3プロジェクトを行政主導で推進していくうえでの課題感、民間活力を取り入れた推進方法
懇話会のまとめ		<ul style="list-style-type: none">長野市の強みを生かしたまちづくりのストーリーを描き、多種多様な課題にアプローチするプロデューサー機能がまちづくりを推進
懇話会で意見をいただきたい内容		<ul style="list-style-type: none">本日は特に、東口エリア活性化の中心となるビッグハットの活用について、課題を共有したうえで、今後取り組むべきことに対する意見・アドバイスをいただきたい

推進中の3つのプロジェクト



飯綱高原の特性を活かした合宿等の誘致の現状

旧飯綱高原スキー場の敷地（駐車場や関連施設）を活用し、域外から観光客を誘引する方策として“スポーツツーリズム（スポーツ合宿・大会の誘致）”を推進し、来訪者による宿泊・飲食・交通等の効果に加えて、観光やシティプロモーションの効果も狙い、「スポーツの産業化」を目指す。

なお、直近では、合宿拠点化のシンボリック的位置付けとしてプロサッカーチーム誘致を主軸に推進する想定。

背景・目的・取組概要

背景

- 2020年の飯綱高原スキー場の営業終了によって失われた飯綱高原エリアの賑わいを再度もたらすための施策検討が必要であり、近年の酷暑化や**国内プロサッカーのシーズン移行**（秋春制※26-27シーズン以降）に伴い、夏の合宿地として冷涼地での合宿需要が高まっている中で**飯綱高原スキー場跡地を有効活用**できる可能性がある。

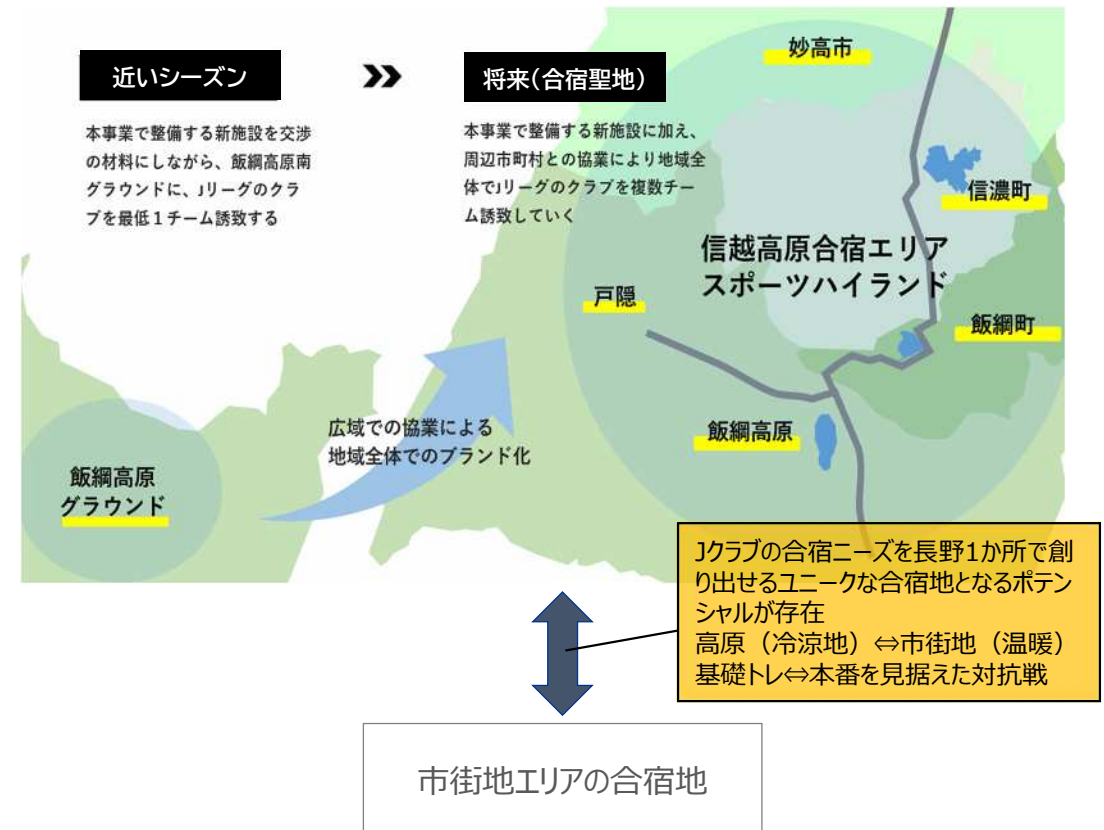
目的

- 既に整備済みの天然芝グラウンド1面に加え、旧飯綱高原スキー場の敷地（駐車場や関連施設）を活用し、**域外からの観光客を誘引する方策として、スポーツツーリズム（スポーツ合宿・大会の誘致）を推進し**、来訪者による宿泊・飲食・交通等の効果に加えて観光やシティプロモーションの効果も狙い、「**スポーツの産業化**」を目指す。
- Jリーグクラブの誘致、および**ユース、学生、周辺広域の子供など幅広い層が使用できる環境を整備し**、地域振興に役立てる。

これまでの取組概要

- まずは、**近いシーズンにプロ1チームの誘致に向け**、現在、長野市が主導してJリーグクラブの視察誘致など誘致活動を展開、**その先のシーズン以降には周辺市町村と連携した複数チーム誘致、および周辺地域との観光連携による来訪者の周遊を見据え**、誘致活動に取り組む方針。
- また、**サッカープロチームが合宿しない期間**に関しては、**他のプロスポーツやアマチュアの合宿・大会での活用や市民が利用**することを想定し、**誘致活動・施設整備を進める**。

具体取組のイメージ



ビッグハットを核とした東口エリアの活性化プロジェクトの現状

東口エリアにおいては、ビッグハットを中心コンテンツとして人を集め、その後、他施設との連携による回遊を生み出していく。現在、スポーツコンプレックス事業においてビッグハットの利活用について検討中

背景・目的・これまでの取組概要

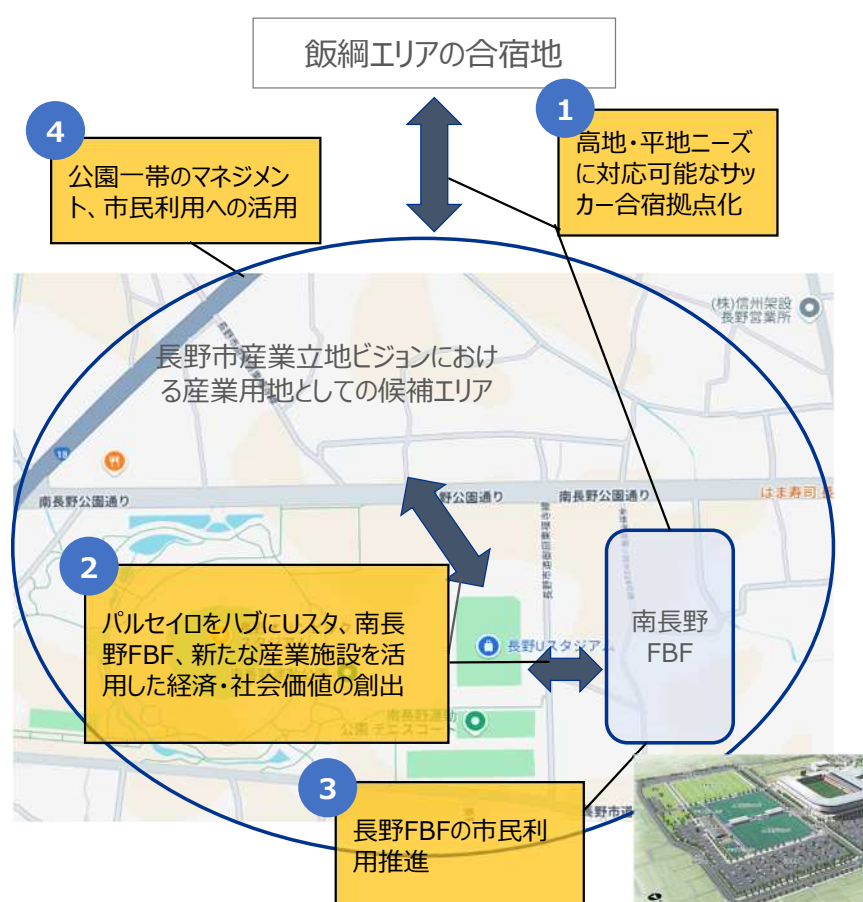
背景	<ul style="list-style-type: none">これまで東口エリア開発においては公園整備などハードを中心に実施してきたが、今後はハードを最大限活用した様々なコンテンツにより、東口エリアのまちの賑わいを創出し、エリア一体の活性化を図っていく必要がある。
目的	<ul style="list-style-type: none">賑わいの中心となることが期待されるビッグハットを軸に、長野駅からの導線や周辺環境の整備の検討が主目的となる。＜東口エリアの現況・課題など＞<ul style="list-style-type: none">大規模な区画整理により整備された道路等のインフラビッグハット・若里文化ホールの今後の利活用方法東口の長距離バス、タクシー、一般車両が混雑している長野赤十字病院の建て替え
検討の優先度	<ul style="list-style-type: none">エリア全体の活性化において、上記の施設・インフラそれぞれの価値向上をしていくことが必要となる。中でもまずはエリアの中心となるビッグハットの価値向上、人を集めることの検討を行う必要がある。



南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成の現状

南長野運動公園の利活用においては、飯綱グラウンドとの掛け合わせのほか、パルセイロの拠点化、市民利用への活用といった方向性を検討中

具体取組のイメージ



現状と課題

- スタジアム隣接地で国民スポーツ大会に向け、フットボール場（人工芝2面、天然芝1面）を建設中で、2027年秋にオープン予定。国スポ後の後利用の検討が必要。
- 昨年秋に「長野市産業立地ビジョン」を策定し当該課題を解決することを目指している。産業立地ビジョンにおいては、スタジアムの近隣が産業立地開発候補エリアとなっており、現在具体化に向けた取り組みが進行中。
- 近年の酷暑化に伴い、高原など冷涼な気候の合宿地が求められており、長野市の飯綱高原でも“合宿の聖地化”を目指しグラウンド整備（2面）を進めている。Uスタや南長野FBFと連携した合宿誘致方法を検討する必要がある。

現状想定している利活用方針

- スポーツコンプレックス推進事業の中で、下記4つの方向性を検討。ステークホルダーを巻き込みながら解像度の高い計画に落とし込み公表を予定
- ① **飯綱高原グラウンドとの掛け合わせ**の観点(エリアでの合宿/大会利用の複合的な検討：経済価値)
- ② **パルセイロの拠点化** (プロチームの利用でブランディングとともに、触れあいにより観戦誘導へ：経済価値)
- ③ **南長野FBF市民利用** (平日の昼・夜の時間帯は学校・団体利用など複数競技者に広く開放：健康)
- ④ **公園全体でのマネジメントによる市民利用への活用** (多様な社会価値の観点も含める：コミュニティ、防災、育児、教育、また、その結果のネーミングライツの獲得)

第1回懇話会の振り返り

全体については、ビジョン・戦略、プロデューサー機能、管理・運営体制の必要性について触れられ、個別プロジェクトについては、先行している飯綱については具体コンテンツ案、東口・南長野は推進スキーム等に関する提言をいただいた

第1回懇話会での主な意見

第1回懇話会のまとめ

プロジェクト全体

- ・ **プロデューサー機能**として、多種多様な課題へのアプローチを志向できる職員とパートナーの確保が必要となる（一言委員）
- ・ 複数のプロジェクトをとりまとめるプロデューサー機能が必要となる（中村委員）

〈北部〉

- 1 飯綱高原の特性を活かした合宿等の誘致

- ・ **合宿地のコンテンツ開発**
 - 合宿地のコンテンツとして、合宿時のトレーニングマッチを起点に大会を組成し、大会を放映していくことが考えられる（森元委員）
 - キッチンカーのハブ産業を創り、非常時に防災協定を締結した他自治体に派遣することで、賑わいの創出だけでなく、防災観点でも地域に貢献できる（中村委員）
- ・ **合宿地のブランディング**
 - 長野の強みであるオリンピックや歴史といったストーリー性、山岳信仰、自然、アクセスの良さを生かしたブランディングをすべき（中村委員）

〈中心部〉

- 2 ビッグハットを核とした東口エリアの活性化

- ・ **市民理解の醸成**
 - 市のビジョンと綿密な戦略による市民理解の醸成が必要となる（水野委員）
- ・ **開発手法の検討**
 - メインストリートの活用のため車道の一車線廃止による公有地の創出、民間資金を活用した開発スキームの検討をすべき（中村委員）

〈南部〉

- 3 南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成

- ・ **民間理解の醸成**
 - 経済効果、波及効果の論理的かつストーリー性が伴った説得による長野市の経済界のスポーツへの巻き込みが必要となる（水野委員）
- ・ **推進体制**
 - 第三セクターを活用し、そこに住人出資を入れることで地域住民のコミットメントを獲得でき、ガバナンスが構築されることで、公益性を向上させることができる（中村委員）

- ・ **多種多様な課題にアプローチするプロデューサー機能が主体となってまちづくりを推進する必要がある**
 - ✓ 事業者を巻き込んだ施設・コンテンツ開発
 - ✓ まちづくりのビジョンと綿密な戦略による市民理解の醸成
 - ✓ 施設の価値向上に向けた運営・管理体制の構築・組成
- ・ **長野市の強みであるオリンピック、歴史や自然といった地域資源を生かして強力なまちづくりのストーリーを描くことができるポテンシャルがある**

第2回懇話会の振り返り

第2回については、第1回の議論を踏まえて、まちづくりのプロデューサー機能の体制やスキーム等について、主にプロジェクト全体を推進していくうえでの重要なポイントについてご意見をいただいた

第1回懇話会でプロデューサー機能の必要性を議論

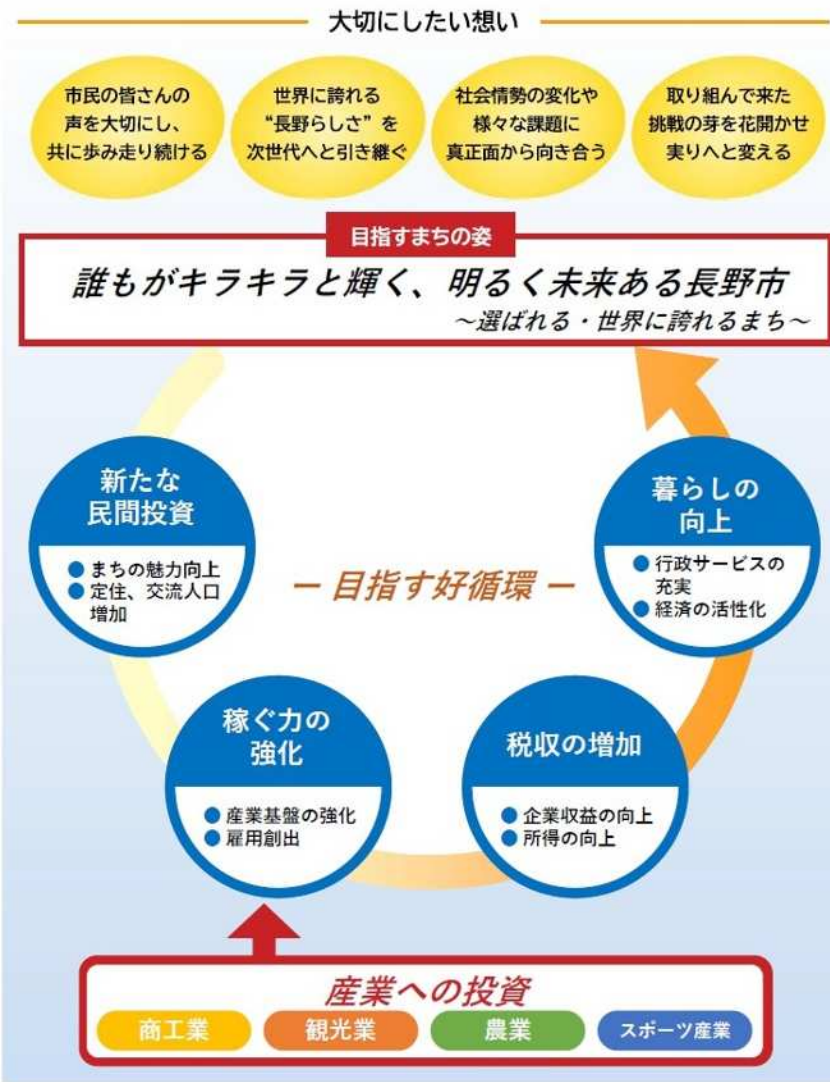
第2回懇話会での主な意見

プロデューサー機能	推進主体	<ul style="list-style-type: none">一般的には、プロデューサーである地元の「声の大きい人」が中心となり、行政と連携し、地元企業をまき込んで進める（田嶋委員）民間主体だけでは投資を集めてまちづくりを進展させていくのは困難であり、長野においては行政が主導で方針を打ち出し、それに民間がのってくる形が良い。まちづくりのイメージが沸く方針・構想、および地元企業がどの程度の投資をすればいいのかを今後具体化していく中で検討する必要がある（水野委員）
	スキーム	<ul style="list-style-type: none">エリアマネジメントの実行主体として3セクを活用すべきであるが、3セクのパフォーマンスを議会で追及され、本質ではない業務に多くの工数を割かなくてはならないケースが散見されるため、「議会の外」に実行主体は置くべき（中村委員）
	収益マネタイズ	<ul style="list-style-type: none">自治体としてエリアマネジメントは「コスト」ととらえるケースがあるが、本質的には収益を生み出すことが必要。札幌のエリアマネジメントを行う札幌大通りまちづくり株式会社は広告事業で収益を生み出すことに成功している（一言委員）

第2回懇話会のまとめ

- 長野市においては、**行政主導で民間を巻き込みプロジェクトを推進していく必要がある**
 - 民間だけでは投資を呼び込みまちづくりを推進するのは限界があり、行政が主体となり、地元企業を巻きこみ、3セクを実行主体として活用しながらまちづくりを推進
 - エリアマネジメントで収益を生み出す事業を創造し、持続性を担保

荻原市政2期目の推進方針



「4つのテーマ、8つの政策を実行し、実現！」

1

「未来を育み、今を守り、また未来へ」

<医療・福祉・子育て>

～すべての世代が安心して暮らせる長野へ～

1-1

市民が安心して生き生きと暮らし続けられるまちを目指して、福祉・医療体制の一層の充実に取り組み、市民の健康保持・増進を図ります。

1-2

子どもたちに夢や希望あふれる確かな未来をつなげ、安心して子育てできる環境の充実や子どもたちを応援する取り組みを推進し、教育環境の整備に取り組みます。

2

「人の輪が力を生み、その力が輪を広げる」

<まちづくり・交通渋滞>

～地域コミュニティと絆の強化～

2-1

将来にわたり持続可能な地域の実現に向け、「孤立しない社会」「共につながり合う地域」「憩いと交流を生み出す場づくり」を起点として、それぞれの地域の「らしさ」や強みを伸ばしていきます。

2-2

誰もが移動できるまちをつくることで、暮らし・観光・経済を支える基盤を整えます。

3

「地域で稼ぎ、地元へ還す経済」

<経済振興>

～強くしなやかな地域経済の構築～

3-1

商工業の振興を図り、農業の高付加価値化に取り組み、力強い市内産業の基盤強化を図ります。

3-2

本市にある、観光・スポーツ・文化資源をフル活用して、まちのにぎわいや市民生活の活力向上につなげます。

4

「備えが安心を生み、安心が挑戦を可能にする」

<地域・文化・スポーツ振興>

～安全・安心な“まち”づくり～

4-1

安全・安心なまちづくりを基盤として、既存インフラ機能のバージョンアップを図り、将来にわたり暮らしを守り続けられるまちづくりを進めるとともに、様々な世代から選ばれるまちづくりを目指します。

4-2

将来にわたり安心して暮らせる長野市づくりを市民の皆さんと共に進めていくために、市役所機能をアップデートし、持続可能な市民サービスの提供体制を整えます。

長野市長公約の中でのプロジェクトの位置づけ

第1回、第2回で討議したプロジェクトの内容が長野市長の公約に反映され、今後、市政の中で重要な施策として推進していく

長野市長公約

1. 「未来を育み、今を 守り、また未来へ」

福祉体制・地域医療の充実

子育て環境の充実と教育環境の整備

子ども・若者支援の拡充

教育支援と若者定住策

2. 「人の輪が力を生み、その力が輪を広げる」

持続可能な地域コミュニティの構築

誰もが移動できるまちづくり

3. 「地域で稼ぎ、地元へ還す経済」

産業基盤の強化と農業振興

観光・スポーツ・文化資源の活用

4. 「備えが安心を生み、安心が挑戦を可能にする」

長野市らしく魅力的で持続可能なまちづくり

恒久的な市民サービスの提供に向けて

推進中の3つのプロジェクト



推進中の3つのプロジェクトが公約に反映

1 飯綱高原を核としたスポーツ振興

飯綱高原に子どもからプロチームまで利用できるサッカー場を整備し、南長野運動公園横に建設されるサッカー場との連携を図りながら、サッカーをはじめとした合宿や大会誘致を推進します。

2 ビッグハット・若里エリアの活性化

ビッグハットの興行利用を促進することで、長野駅からビッグハットへの人の流れを作り、東口周辺のバスパークや公園などと連携したエリア全体の活性化につなげます。

3 南長野運動公園周辺のまちづくりの推進

スポーツ振興や市民の憩いの場である南長野運動公園周辺の一体的なまちづくりを推進します。

ビッグハットを核とした東口エリアの活性化：現在の長野市内での取り組みと課題感

背景、および 長野市の現状・ 課題感

- 東口エリア開発においては、賑わいの中心となるビッグハットを軸に長野駅からの導線や周辺環境の整備を行い、東口エリアの賑わいを創出し、エリア一体の活性化を図っていく必要がある。
- エリアの活性化を考えるにあたって、施設それぞれの価値向上を図っていく必要があるが、まずは**エリアの中心となるビッグハットの価値向上**、人を集めることの検討を行う必要がある。
- ビッグハットの現状課題としては、これまでの調査から下記のようなことがわかっている。
 - ✓ **グリーンシーズンの稼働余力があり、コンサートを中心としたMICEによる収益最大化に向けた余地がある。**
 - ✓ **アイスシーズンは12月～3月と短く、グリーンシーズンの倍の稼働率にも関わらず、売上額はグリーンシーズンよりも月平均140万程度低くなっており、アイスシーズンにMICEやコンサートが開催できないことによる機会損失が生じている可能性がある。**
 - ✓ また、公益効果の観点からは、アイスシーズンが年々短くなるなど、スピードスケート、アイスホッケーの競技力向上には繋がらず、オリンピック育成に寄与していない。

長野市での プロジェクト推進に 向けた取り組み仮説

- ビッグハットはアクセス性やコンサート含め多目的に利用できることから、**経済効果を最大化できる施設**と考える。長野市でアイススポーツ文化を持続的に運営させていく上で必要となる財政確保を担う施設となることができる。
- コンベンションやコンサート**誘致の共同事業体**を軸に、学会、展示会・見本市・コンサート等を誘致し、単価改正を行い、指定管理料の減額を行う。
- アイスホッケー、フィギュアを中心としたアイススポーツ活性化施設としてビッグハットに代わる施設の検討を進め、アイススポーツの聖地化や普及・競技力向上に向け活用することで、ビッグハットには氷を張らずにMICE、コンサート等稼ぐ施設として特化する。

懇話会の委員に 意見を伺いたい点

- ビッグハットの価値を最大化するために展開すべきコンテンツ、必要な機能とは
- 人を集めることができるコンテンツをビッグハットに誘致するための体制、スキームとは